第百二十九回　平成二十三年十二月十七日（於大阪北浜）

慈雲尊者筆　戒是佛寶之壽（律儀是正法之命脈（慈雲尊者著「根本僧制」）と同義）

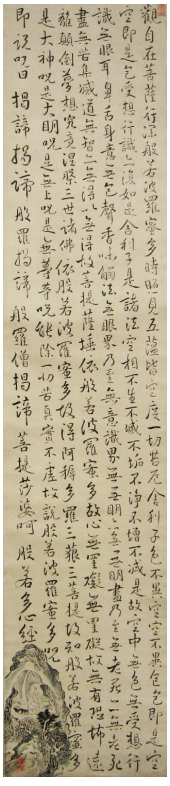
佛教の三学として、「戒」・「定」・「慧」と説かれる。人間の心は止めども無く移りゆくので、戒によって定めてゆくことが大切。戒は儒教の「礼」に当たるもので「克己復礼」の語がこれに相当する。

顔淵仁を問ふ。子曰く、己に克つて礼に復るを仁と為す。一日己に克つて礼に復れば天下仁に帰す。仁を為すは己に由る、人に由らんや。顔淵曰く、請ふ其の目を問ふ。子曰く、非礼視ること勿れ、非礼聴くこと勿れ、非礼言ふこと勿れ、非礼動くこと勿れ。顔淵曰く、回不敏なりと雖も、請ふ斯の語を事とせん。（論語・顔淵篇）

その他、佛教では三宝として、「佛」・「法」・「僧」。三つの智慧として「聞慧」・「思慧」・「修慧」の三慧。大藏経（一切経）は「経」・「律」・「論」の三つの部門に分けられている。

律儀是正法之命脈、禅那（禅定）是真智之大源、及八万四千法門悉皆無非甚深解脱要路、須各随其所楽日夜専精修習勤学不得懶惰懈怠悠然送光陰、及諍論淺深逞於宗我（慈雲尊者「根本僧制」第五條）

池大雅筆「般若心経」



人生閑適最宜　万物皆過忙裏（裏＝中）
一忙一閑　過了人生　所得幾何　是亦可笑　（春日潜庵）

昨日といひ今日とくらして明日香川流れて早き月日なりけり（古今集）

いつまでか明けぬ暮れぬといとなまん身は限りあり事は尽きせじ（明恵上人）

日月上に遊んで形体下に衰ふ　忽然として万物と遷化す　尺璧を軽んじて寸陰を重んずるは時に及ばざらんことを恐れてなり　（熊沢蕃山）

富岡鉄斎　画・賛　謝疊山建寧晩晴図（謝疊山は宋末の人。建寧は地名。晩晴は夕方の晴れた景色。）

☙楠葉だより第三九三信・三九四信の解説。

○貝原益軒著「慎思録抄」の勉強　今回にて了。